

自己点検・自己評価の概要

1. 教育目標

- (1) アクティブラーニング型授業づくりを推進する。
 - ① 新カリキュラムに位置づけた科目「学びの基本」を基盤にした授業を展開する。
学生が科目：学びの基本で体験した協同学習の基本を各看護学領域での授業展開に活用する。
 - ② ミニ授業研究会の充実を図る。
各看護学領域で少なくとも1件以上の授業展開（案）をミニ授業研究会に提案する。
- (2) 地域（病院等）と連携した看護基礎教育を推進する。
 - ① 臨地実習施設と協同して看護基礎教育に係るビジュアル教材の作成を行う。
 - ② 実習施設との連携の強化
臨地実習施設と実習指導上の課題を共有し、年に1回程度の情報交換会を持つ。
 - ③ 臨地実習施設との双方向での人事交流を行う。
 - ④ 浦添市と連携した看護基礎教育を行う。
 - ⑤ 学生のボランティア活動を教育的視点から推進する。
- (3) 入学後の学習活動に活かせる「入学前学修」を実施する。
- (4) 看護基礎教育における ICT の活用を推進する。
- (5) 本校の教育評価ガイドラインの作成・実施について検討する。
- (6) FD 活動の推進
 - ① 湘央学園浦添看護学校 FD 活動としてのマニュアル作成をする。
 - ② ミニ授業研究会の活性化を図る。
- (7) 教育環境の整備
 - ① 教材の保守点検を年1回行う。
 - ② 図書室の環境整備
 - ③ 学生専用ロッカーの購入整備の検討

2. 財政体質の安定化

- (1) 収支を見極めた予算計画を立て、計画に基づいた執行をする。
 - ① 予算確保及びその執行について教職員の理解を得る。
- (2) 財源確保に向けた取り組みを推進する。
 - ① 退学者、休学者の増加を抑える。
 - ② キャリア支援チームによる学生支援を継続する。
 - ③ スクールカウンセラーの活用を推進する。
 - ④ 受験生の確保を推進する。

3. 組織構造の改善

- (1) 効率的な学校運営を推進する。
 - ① 学務システムの導入と運用
 - ② 校務分掌の見直し・具体化を図る。
 - ③ 新人事評価に基づき各教職員を支援する体制を推進する。

- ④ 実習施設との「教育研修制度」を充実・強化する。
- ⑤ 看護教育機関の職場体験を実施し、安定的な教員確保につなげる。
- (2) 教職員の同僚性（協同）を推進する。
 - ① 実践研究授業（授業参観→授業の振り返り→授業改善）の実施
 - ② FD 委員会を活用し、FD 活動を通して教務職員同士が学び合う風土の醸成を図る。
- (3) 新人事評価制度の運用を評価する。
- (4) 広報活動の工夫
- (5) 働きやすい職場環境を推進する。
 - ① 業務改善委員会を立ち上げ、業務圧迫の要因を検討する。
 - ② 有給休暇の計画的取得を推進する。
 - ③ ハラスメント対策への取り組み。
- (6) 教職員のキャリア支援を推進する。
 - ① 教員のラダーに基づいた研修体制を周知する。
 - ② 教職員の主体的な研修参加を支援する。

3. 各評価指標の概要

指標Ⅰ：教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2) 学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か	4
3) 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4
4) 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか。	3
5) 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

課題

- 1) 18 歳人口が年々減少していく中で、看護師を目指す若者を定員数確保することは、今後一層厳しくなることが予測される。看護師を目指す若者に選ばれる学校を目指して、専門学校としての本校の教育の特徴を具体的に広報する。
- 2) 自己点検・自己評価の結果を踏まえた 効率的学校運営と社会のニーズを踏まえた学校の将来構想および臨床現場との緊密な関係性の中で、今後の教育の在り方の検討を継続していく。
- 3) 保護者との連携を密にして教育理念等に係る効果的な周知の方法を検討する必要がある。

今後の改善策

課題1) について

- (1) 入学前学修の方法や内容について評価、改善し、その成果を広報する。
- (2) 公開授業の推進

課題2) について

- (1) 学内において、今後の「学校の在り方検討会」を継続して実施する。
- (2) 臨床現場との情報交換会を年1～2回開催する。

課題 3) について

- (1) 後援会総会時に建学の理念及び教育目的の説明を行うと同時に、教育現場が抱える課題を共有する。
- (2) 年 1 回程度の情報交換会をオンラインで行う。

4. 特記事項（良い点）

- 1) 学校の在り方検討会で、教職員全員で、SWOT 分析から二次元展開まで実施した。今後は引き続き BSC 作成する予定である。
- 2) 履修規程の内規や学校生活の手引きを実態と合わせて検討し、修正した。

指標Ⅱ：学校経営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 目的に沿った運営方針が策定されているか。	4
2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4
3) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか・有効に機能しているか。	4
4) 人事、給与に関する規程等は、整備されているか	4
5) 教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4
6) 業界や地域社会等にコンプライアンス体制が整備されているか。	4
7) 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4
8) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3

課題

- 1) 地域に根づく看護学校としての情報発信を推進する。
- 2) ICT に関わる技術職員の確保が必要である。

今後の改善策

課題 1) について

- (1) 浦添市、浦添市 8 自治会、JICA 沖縄国際センター、実習施設である中規模病院等との連携を深める。
- (2) 地域活動への教職員の積極的な参加を推進する。
- (3) 学生のボランティア活動と各看護学教科目との連携を検討する。

課題 2) について

- (1) 法人本部との調整

特記事項（良い点）

- 1) 浦添市生涯学習推進協議会への学生派遣ができた。
- 2) 浦西中学校区コミュニティづくり推進委員会への職員派遣
- 3) 実習施設との連携強化が図れた。
- 4) 教育活動の情報公開として 2 学会に演題を 2 題発表できた。

指標Ⅲ：教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか。	4
2) 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4
3) 学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか。	4
4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
5) 関連分野の企業・関係施設など、業界団体などとの連携により、カリキュラムの作成・見直しなどが行われているか。	4
6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習など）が体系的に位置づけられているか。	4
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3
8) 職業教育などに対する外部関係者からの評価を受け入れているか。	4
9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4
10) 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるのか。	4

課題

1) 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針などについて

2022年度の第5次カリキュラム改正に伴い、教育課程の編成を行った。2024年度は、3年間の教育課程の実施を評価する時期だが、評価方法や基準の明確化が検討である。

2) 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保について

(1) 実技科目の授業内容

授業が4校時までであり、空き時間を利用した技術練習において実習室使用の重なりがある。技術練習や技術テストについて実習室使用の工夫、支援方法が課題である。

(2) 教育方法の工夫や開発などについて

臨床現場と協働して教材づくりを実施しているが、施設の拡大や継続できるための体制づくりが課題である。

(3) 「健康支援を知る実習」について、多くの実習施設の確保と調整が課題である。

3) 授業評価の実施・評価体制について

(1) 実習評価はルーブリック評価で体系化できたが、評価項目や評価基準の妥当性などの見直しは継続検討する。

(2) 授業評価アンケート調査の学生の参加率を上げるための工夫が必要である

(3) 評価結果の活用方法

授業評価結果をデータ化し、授業改善に活かしていくことが必要である。

今後の改善方策

課題1)について

(1) 教育理念を踏まえ引き続き教育内容の検討を継続的に行い、評価基準を明確化する。

(2) 教育内容の説明と周知

課題2)について

- (1) 各専門領域の科目内容や指導方法の現状と課題についての検討を行い、効果的な学修方法を実践していく。技術到達度に応じた練習時間の十分な確保、臨地実習で自信をもって体験できるように看護実践を支援する。
- (2) 臨床現場と協働して教材づくりを継続できるための教育内容の情報交換や体制づくり
TAによる教育効果を評価し派遣元との連携の方法を制度化する。
- (3) 「健康支援を知る実習」に関する実習施設との情報交換会を行い、今後の改善に活かす。

課題3)について

- (1) 実習評価内容の継続検討、評価指針について検討する。
- (2) 今後ミニ授業研究会などを継続して実施し効果的な授業評価に活用していく。
- (3) FD活動の一環として授業改善を進める。
- (4) 実習施設との情報交換会を年間計画し、定例化する。

特記事項（良い点）

- 1) 教科目外の特別講演や特別講義、学校祭など行事が実施できた。
- 2) 教育方法の工夫として「看図アプローチ」の教材づくりを通して臨床現場との連携、研究発表までつなげた。
- 3) FD活動を通して授業改善ができ、教育実践力の向上につながっている。
- 4) 「健康支援を知る実習」など新カリキュラムの実習でも多くの実習施設との連携がとれた。

指標Ⅲ：教育活動（教員等）

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4
2) 関連分野における業界等との連携においてすぐれた教員（本務・兼務を含む）を確保するなど、マネジメントが行われているか。	3
3) 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取り組みが行われているか。	4
4) 職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4

課題

- 1) 教務主任養成講習会の受講率を上げる。（2023年度1名派遣）
- 2) 研修成果の報告会を行い共有化を図る。
- 3) 安定的に専任教員を確保する。
- 4) 看護教員養成講習会及び実習指導者講習会を継続的に受講する。
- 5) 学内のFD活動の定着、促進を図る。
 - (1) 主体的な話題提供者を増やす。
 - (2) ミニ授業検討会および授業参観への参加者を増やす。

今後の改善策

課題 1) について

日本看護学校協議会の教務主任養成講習会への派遣を定例化計画的に実施する。

課題 2) について

- (1) 学内におけるFD活動を活性化し、研修・研究報告会や教授展開において効果的な取り組みをしている教員の実践活動等を紹介する。
- (2) 日本看護学校協議会主催看護教員研修・沖縄県主催の実習指導者講習会への派遣を計画的に実施し、新任教員のモチベーション維持を図る。
- (3) キャリア別達成目標を活用し、沖縄看護教育協議会主催の研修会やeラーニングによる研修会等に参加する

課題 3) について

- (1) 沖縄県ナースセンターと連携する。
- (2) 教職員間のネットワークを活用する。
- (3) 現教員の働き続けられる環境づくりに継続的に取り組む。

課題 4) について

- (1) 2025年度の沖縄県看護教員養成講習会に2名派遣を計画する。

課題 5) について

- (1) ミニ授業検討会の開催について話題提供者が主体的に参加できるよう参加しやすい雰囲気づくりをおこなう。
- (2) ミニ授業検討会の開催について一連の流れを明文化し、PR活動を行う。

特記事項（良い点）

- (1) 沖縄県保健師助産師看護師実習指導者講習会に3名、特定分野の講習会に1名、講師として派遣することができ、教員のキャリアアップにつながった。
- (2) FD委員会の活動として、本年度は各領域から話題提供者を集い、ミニ授業検討会を計3回実施することができた。参加者からは肯定的な感想や意見があった。
- (3) 看護研究学会や協同教育学会に論文を投稿し、口頭発表することで、教員の研究的視野が拡大した。

指標Ⅳ：学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 進学率や就職率の向上が図られているか	4
2) 資格取得率の向上が図られているか	4
3) 退学率の低減が図られているか	3
4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3

課題

- 1) 退学者・休学者のほとんどが「進路の迷い」「学習への不安」「経済的問題」などを抱えている。
- 2) 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価と卒業後のキャリア形成への効果の把握について今後、検討を要する。

- 3) 退学理由は主に「進路変更」であり、休学理由は「学習への不安」「単位未履修」などである。
学習への取り組みについてさらに個別的に支援する必要がある。
- 4) 看護師国家試験につながる学習方法を1年次から段階的に計画する必要がある。

今後の改善策

課題1) について

- (1) 成績が低迷している学生や指導が難しい学生の対応について教員がコーチングスキルを身に付けるための研修会を実施する。

課題2) について

- (1) 卒業生の就業先での就業状況を把握し、看護基礎教育での課題を明確にしていく。
(2) 同窓会と連携して卒業後のキャリア調査を実施し、キャリア形成の状況を把握する。

課題3) に対して

(1) キャリア教育の充実

看護職としてキャリアを積むことの意義を理解するために、看護協会や認定看護師などによる講演会の計画をする。学習支援を個別・若しくはグループ単位で継続的に実施、学習支援を強化する

課題4) に対して

国試対策の3年間の計画を立案し、学年の達成目標を共有する。

特記事項（良い点）

1) 国家試験対策が充実している

- (1) 資格取得については、国家試験対策委員会が設置されており、各学年担当の意識も高く、1年次から計画的に学習できるような環境を整えている。
- (2) 国家試験対策関連業者と連携をしながら成績を評価分析し、学習状況について個別面談を実施している。また学年担当教員を中心に個別指導を徹底している。
- (3) 国家試験合格の状況分析を行い、次年度の教育計画に生かしている。
- (4) 後援会からの経済的支援がある。
- (5) 2022年4月より民法が改正され成人年齢が引き下げられたことに伴い、自己決定や種々の契約が1人でできるようになるため正しく判断できるための成人教育が必要であることを2022年度の課題に挙げていたが、2024年度は、外部業者に依頼し「金融トラブル・カードの契約について」の講座を開催した。
- 2) 障害学生支援の規程を策定し、合理的配慮に対応できるようにし、学習環境の整備を実施している。

指標Ⅴ：学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
2) 学生の健康管理を担う組織体制はあるのか	4
3) 課外活動に対する体制は整備されているか	4
4) 学生の生活環境への支援は行われているか	4
5) 保護者と適切に連携をしているか	4
6) 卒業生への支援体制はあるか	4
7) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
8) 専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3

9) 基本的生活習慣の確立のため取組が行われているか	4
10) 学生の安全管理のための取組等（災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障害のある生徒等への支援等）	3
11) 進学・就職指導に係る支援体制は整備されているか	4

課 題

- 1) 学生の健康に関する自己管理能力が身についておらず、身体的・心理的な不健康な状態となり欠席に繋がっている。
- 2) 社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備については、学習する上での課題について把握が必要である。
- 3) 他の専門学校と連携した教育「専門職連携教育」の構築や検討が必要である。
- 4) 合理的配慮の必要な学生の支援体制整備はできたが、個別性に応じた支援体制の方法を検討しながら継続課題として検討が必要である。

今後の改善策

課題1) について

- (1) 自己で健康管理ができるよう保護者と連携して支援する。

課題2) について

- (1) 社会人学生の学業継続や学習困難状況の実態を把握し、課題を明確にして対策を立案し取り組む。
- (2) 奨学金貸与学生の実態を把握する。（学生が直接契約している病院等の奨学金の利用状況）

課題3) について

- (1) 「専門職連携教育」は、全体カリキュラムの時間数や内容を検討し、導入可能な方法を検討していく。

課題4) について

- (1) 2024年度は沖縄県看護教育協議会で合理的配慮の必要な学生への対応について研修会を開催し、学習してきた。支援方法について個別に支援できるようにする。

指標Ⅵ：教育環境

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 施設・整備は、教育上の必要性に十分に対応できるように整備されているか	4
2) 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4
3) 防災に対する体制は整備されているか	4

課 題

1) 施設整備について

- (1) 実習室の設備更新時期となる箇所がある。

2) 環境整備について

- (1) 清掃時間に、教員もラウンドし学生へ声掛けしたが教員がラウンド出来ない時は、清掃出来てない時もあった。学生の環境美化委員へ対応策を立ててもらおう等行ったが学生の清掃メンバーもやる人とやらない人がおり、定着させることが難しい。
- (2) トイレ清掃は清掃中の立て札をおいたが、それでもトイレを使用する人がおり、清掃していても隣で歯磨きなどしていた。昼休みは学生もトイレを使用するので、その時間に清掃する事が難しい。

今後の改善策

課題 1) について

(1) 年度計画をもって更新を行う。

課題 2) について

(1) 清掃時間帯に流している音楽時間帯ではなくそれ以外の時間帯を周知する。

(2) トイレ掃除は学生への負担が多くなる面もあるため、業者へ依頼できないか検討する。

特記事項 (良い点)

- 1) 全館 Wi-Fi 設備を完備している。
- 2) 劣化が見られる体育館折り畳み椅子を一部更新した。
- 3) 実習室整備係が主体的に消耗品などのチェックの役割を担っている。
- 4) 視聴覚教室のプロジェクターを更新した。
- 5) 各学年教室付近に掲示板を設置した。
- 6) 不審者対策など防犯の為、さすまたを 2 個購入した
- 7) 学生提出物用に教務室へロッカーを購入した。

指標Ⅶ：学生の受け入れ募集

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1
1) 学生募集活動は適正に行われているか。	4
2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4
3) 学納金は妥当なものとなっているか。	4

課 題

(1) 入学時アンケート調査結果と現状の学生募集活動とを照らし合わせた結果、本校が行っている活動は、希望者の意向に沿って適切に進められているが、雇用情勢の上向き等により、既卒者の受験者数が減少傾向にあるため、高校生の受験者数を増やすための工夫が必要である。また、入学生が本校を志望した理由を踏まえ今後更に教育内容の質を高め教育環境の整備充実に努めていく必要がある。

さらに、情報社会において入学希望者へ適切に情報提供を行えるよう、ホームページや SNS 等の Web 媒体活用した広報活動の検討やそれに伴う環境整備が必要となる。

今後の改善策

課題 1) について

(1) 入学時アンケート調査結果を踏まえ、進路選択の指標として重要な学校案内パンフレット、学校ホームページ、オープンキャンパスを充実させ、その内容を Web 媒体に反映し入学希望者が必要とする情報を詳細に希望に沿って伝えていく。また、入学時アンケート調査を継続し、回答項目に適宜、修正・追加を加え入学希望者が求める情報を適切に把握し、入学希望者へ提供していく。

特記事項 (良い点)

- 1) 学校案内パンフレットに、在校生インタビューを追加した。新卒者と社会人を経て入学した学生による、本校での学びや入学動機等をまとめた内容で、本校希望者へ在校生の声を伝えることができた。また、その内容をホームページへも反映した。

指標Ⅷ：財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか。	4
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4
3) 財務について会計検査が適切に行われているか。	4
4) 財務情報公開の体制整備はできているか。	4

課題

今後の物価高や人件費の増加を見据え、精度の高い予算編成と年度中期の予算執行状況の確認を行い、柔軟に対応できる体制を整えます。また、中途退学を防ぐため、学生が安心して学べる環境づくりにも取り組みます。

今後の改善策

財務の適正な運営を維持するために、精度の高い予算編成を行い、限られた資源を有効に活用できる体制を整えます。また、年度の中期に予算執行状況を確認し、計画と実績の乖離を把握しながら必要に応じた調整を行います。

4. 特記事項（良い点）

教職員が無駄な支出を抑え質の高い教育を提供できるように一丸となって取り組んでいます。

指標Ⅸ：法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 法令・専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	4
2) 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか。	4
3) 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4
4) 自己評価結果を公表しているか。	4

課題

- 1) 新カリキュラムと旧カリキュラムが同時進行中である。
- 2) 個人情報保護に関しては、組織的に管理体制を明確にする必要がある。

今後の改善策

課題1) について

旧カリキュラムを履修する学生が休学する際、復学時に履修科目の読替えに留意する。

課題2) について

安全管理の視点から個人情報保護に係るインシデント発生時の取扱いについて組織的位置づけを明確にし、PDCAを機能させる必要がある。

特記事項

なし

指標Ⅹ：社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4
2) 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4
3) 地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	4

課題

新カリキュラムでは、英語以外に異文化の理解として韓国語、中国語、スペイン語の選択必修科目を導入した。語学力以外に異文化の理解する場を広げている。学んだ内容を国際協力・交流フェスティバルなどにつなげることが課題である。

また、授業科目「国際看護」の学習の一環で行っている「沖縄にいる外国人へのインタビュー」のまとめは、広く市民へ広報することで国際交流の一助を担うことになると考え、広報の方法を検討していく。

今後の改善策

2024年度の留学生への受け入れについては、法的規制を順守することが困難な状況があり、現時点では時期尚早と考える。

ICTを用いて学生が国際交流できるよう整えていく。

特記事項（良い点）

科目「異文化の理解Ⅱ」を通して、学生の学びの評価から国際的視野を持つ看護師の育成につながった。

日本以外の医療分野の現状について看護学生として関心をめす機会となった。

指標Ⅺ：特別活動等

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) クラブ活動特別活動を奨励、支援しているか。	4
2) 保護者会等と連携した活動を推進しているか。	4

課題

1) 地域の方々とのコミュニケーション積極的に取る場を設ける必要がある。

2) 保護者会との連携方法が構築されていない。

今後の改善策

課題1) について

- (1) 地域に学生の活動を説明し、受け入れてくれる場を積極的に活用する。
- (2) 夏期休暇期間中に学生が参加できる正課外カリキュラムを検討し、実施する。
- (3) 浦添市内自治会を訪問し、教育機関との連携・体制づくりを促進する。

課題2) について

オンライン保護者会の際、学校の現状説明だけでなく、30分程度のミニ講座を入れ、看護師教育について、保護者の関心を喚起する。

特記事項

なし

指標Ⅻ：学校行事委員会

評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや適切・・・2 不適切・・・1
1) 効果的な学校行事の運営ができているか	4
2) 看護等職能団体との連携が取れているか	4

課 題

- 1) 学校祭では、学生が中心となった実行委員会を立ち上げて計画から運営までを行ったが、結果的に作業内容の分担に差が出た。実行委員以外に情報が伝わらず、学年間やクラス間の連携が上手くいっていない部分があり一部の学生に負担となった。実行委員の学生と教職員の間でも連絡が上手くいかないところがあった。コロナ禍で数年間行わなかったこともあって、企画や運営のノウハウが蓄積されておらず、手探りで作業をすすめることもあった。

今後の改善策

課題 1 について

学校祭については、運営上で作成した資料や手順などを残しておき、数年おきに行っても伝達できるようにしておく。実行委員とそれ以外の学生の連携が取れるよう、時間割を工夫し定期的にホームルーム等で話し合いができる環境を作る。

特記事項（良い点）

- 1) 就職説明会は、県内 2 回と県外 1 回の 3 回開催し、病院や施設を招いて行った。時期については、見直しの要望もあり、今年度は 3 月にも行った。次年度は 12 月に行う予定である。
- 2) オープンキャンパスは、姉妹校との合同オープンキャンパスと本校のみのオープンキャンパスの 2 回行うことができた。どちらも事前予約などで人数制限をせず、合同オープンキャンパスは約 220 名、本校のみのオープンキャンパスは約 120 名の来場者があった。体験授業や看護の領域ごとにプログラムを企画するなど新しい取り組みも多く、準備時間が足りない面もあったが、学生と協力して開催することができた。
- 3) 学校祭は、約 700 名の来場者があり盛況であった。来場者には浦添看護学校の設備や雰囲気を知ってもらい、興味を持ってもらうことができた。前年度よりも多く外部団体を呼ぶことができ、フードバンクへの寄付を募るなど、新しい取り組みもできた。学生、来場者ともに「楽しかった」「参加して良かった」と好評だった。